《洗剤メーカー picupi、松山文創園區》

目的：台湾におけるリサイクルの現状について知る

学び

養殖場で廃棄される貝殻を原材料として、利用した洗剤を製造販売している「picupi」では、EcoCalの発見から製品開発に至るまで、製品の特徴やこだわりと今後の経営展開などの話を伺うことができた。リサイクル先進国の台湾は、資源を海外からの輸入に依存していることから、行政による指導のもとで国民がリサイクル活動に参加しやすい仕組みが築かれていることを見ることができ、自社にてリサイクル資源を活用する事業を担当する際は、台湾での取り組みを参考にしたいと思う。

《テックマンロボット、台北101》

目的：地場で働く製造業として、鹿児島のものづくりを強くするために海外から学ぶ

学び

「ルールは変化するもの」という認識があるのではないかと感じることができるほど、製品を常にアップデートしていく意思決定力、スピード感を感じることができた。また、製造業でありながらも従業員の約50%は、ロボットプログラムやAIの研究開発を行うエンジニアであることに驚いた。自社と大きく異なり、顧客の需要を確認しながら、常にアップデートしていくことができる状態であると感じた。今後は、現状の生産方法の最適化を目指し、競合から真似されない立ち位置を勝ち取りたい。

《雙連朝市、台北魚市・上引水産・南門市場》

目的：台湾における市場・魚食文化について知る

学び

日本の市場と異なる圧倒的な熱量と活気を体感でき、消費者の購買意欲の高さを肌で感じることができた。一方で、市場によって異なる見せ方を視察することができ、場所によっては日本の「デパ地下」のような洗練された印象を持てるところもあり、商品の価値を最大化する視覚的な魅力を訴求していく重要性を知ることができた。これらにより、海外展開への意識が変わり、条件や方法次第で十分に可能性があるという確信を持つことができたのでチャレンジしたいと思う。

《台榮産業股份有限公司、台湾三井物産股彬有限公司》

目的：食と職の視野を広げる

学び

台湾での同業者等から自社でも取り扱う製品の台湾での需要や健康志向の高まりによる変化などを伺うことができた。また自社の情報の提供を行うことで、こちら側の取り組みに興味を持っていただくことができ、継続した交流に繋がるきっかけを持つことができた。今後は、2社を訪問したことにより得ることができた情報を社内で共有し、業務効率化や生産性の向上に繋げていきたい。また、この研修で繋がることができた人とも継続した関係を続けていく。

《陽明山國家公園遊客中心、天渓園生態教育中心》

目的：海外における環境教育・自然体験活動の実態調査

学び

　プロジェクションマッピングを活用した展示手法や国家公園（日本の国立公園にあたる）での自然環境・動植物に関するレクチャーを体感することができ、貴重な経験となった。展示や解説は、五感を使って体験することで理解に繋がることを実感し、模型やプロジェクションマッピングの活用など、自然環境をより身近に感じられる解説手法などの工夫が、地域の自然を守る意識に発展すると考え、今後に活かしていきたい。

《チャイナエアライン、迪化街、龍山寺》

目的：台湾人旅行者の嗜好から考える鹿児島誘客の新戦略

学び

　今回の研修を通じ、台湾人旅行者の嗜好や誘客課題を整理したことで、桜島に代表される自然や食、生活文化といった地域の魅力を「誰に、何を、どう伝えるか」という戦略的な情報発信の重要性を再認識した。また、夜市のように日常と観光が無理なく共存する姿を目の当たりにし、地域の日常と観光が自然に調和している印象を受けた。人とのつながりを深めるだけでなく、自身の固定概念を打破する貴重な機会となり、多角的な視野と、現地のニーズを深く分析する姿勢を今後の業務に活かしていきたい。

《濱江果菜市場・魚市場、現地スーパー(大全聯、家楽福、美麗市場、微風超市)等》

目的：台湾における輸入食料品の現状と今後の動向について知る

学び

　市場内の精肉コーナーでは、宮崎県の牛肉が多数販売されており。ミニのぼりや統一されたシールの貼付け等、分かりやすいPRがされているのも見ることができた。また、異なる客層のスーパーマーケットを視察し、熊本県・宮崎県の農畜産物が多く販売されており、「くまモン」がプリントされているなど、輸出や海外でのPR活動が県を挙げての取り組みとして行われていると感じた。鹿児島黒牛は、2～3倍の価格で販売されており、付加価値の高いブランド牛として輸出拡大へ取り組む価値があると考える。農作物の輸出に農家個人で取り組むことは難しいため、行政・ＪＡ等、県内の関係者が一致団結して取り組むことが重要であると考える。

《台榮産業股份有限公司、台湾三井物産股彬有限公司》

目的：日本から台湾へ流通する商品の実態及び鹿児島・沖縄との関わりについて知る

学び

　今回の研修を通じ、物流業界として鹿児島から台湾、さらにはアジアへ向けて積極的に商品を売り込むことで、物流経路の確保につながり、新たなビジネスチャンスが生まれる可能性があると感じた。

　鹿児島の持つブランドを世界へ発信していくためにも、より一層のグローバル化が重要であると考える。また、台北をはじめとするアジア向けの物流航路を整備していくことは、今後の物流業界(海運業界)にとって課題の一つである。

（3）事後研修

《上海コース》　※台北コースは台風の影響により、日程変更となったため未実施
目的
・ 研修結果を振り返り、研修成果を共有することにより、参加者の視野を広げるとともに、研修成果を今後の生活や仕事に活かしていく意欲を喚起する。
・ 研修終了後の参加者間のネットワーク形成を促す。

○　日時
　令和７年１１月２９日(土)　13：00 ～ 16:15
○　場所
　サンプラザ天文館　 2階 E-5 会議室
○　内容
　①オリエンテーション
　②成果発表（各自3分以内に本研修で学んだことを簡単に発表）
　③グループワーク（報告会に向けた準備・作業）
　④今後のスケジュール等の案内
　　（各データの提出期限、報告会のスケジュール等）

（4）報告会

《上海コース、台北コース合同》
目的
・ 研修成果を共有することにより、参加者の視野を広げるとともに、研修成果を今後の自身の生活や仕事に活かしていく意欲を喚起する。
・ 派遣元の企業や大学等へ研修成果を報告する機会とする。
・ 企業や県民に研修の実績や効果をPRする機会とし、年度以降の派遣企業や参加者の確保につなげる。

○　日時
　令和８年１月１７日(土)　13：00 ～ 16:30
○　場所
　サンプラザ天文館　 7階 ホール
○　内容
　①成果報告（上海コース）
　　・テーマ
　　研修で学んだことを生かして、今後の鹿児島での仕事・学生生活で体現したいことや鹿児島のために取り組みたいこと
　　・形式
　　各コース内のグループごとに、グループ報告 ⇒ 質疑応答
　　個人研修報告(6名) ⇒ 質疑応答

　②講評
　　上海コース団長：有村 雅憲 氏

③成果報告（台北コース）

・テーマ

研修で学んだことを生かして、今後の鹿児島での仕事・学生生活で体現したいことや鹿児島のために取り組みたいこと

・形式

個人研修報告(全員）⇒ 質疑応答

※台風の影響により、延期し2泊3日の日程にて実施したため、グループでの研修を行うことができず、グループでの研修成果の発表は無し。

④講評

台北コース団長：川原 嘉壽 氏

（5）懇談会

《上海コース、台北コース合同》

○ 日時

令和８年１月１７日(土) 17：00 ～ 19:00

○ 場所

サンプラザ天文館　7階 ホール

○ 参加者

36名

（内訳）

・今年度参加者　24名

・今年度の研修生の所属企業・大学関係者　9名

・過去の参加者　3名

○ 内容

参加者間のネットワーク構築を目的とした交流

3. 研修成果

《上海コース》

・今回の研修を通じて、「個人や一企業の利益にとどまらず、社会の発展を見据えて行動すること」の重要性を強く実感した。これは、私が本研修のテーマとして掲げていた「個人や社会に利益の出る環境ビジネスの視察」に対する一つの答えであったと感じている。また、自動運転技術をはじめとする先端分野において、日本と世界との間に明確な差があることを現地で実感した。

・今回の研修を通して，実際の海外展開支援手法について学ぶことができたため、その知見を活かして，県内中小企業者等の海外展開のサポートに繋げていきたい。海外展開を取り組む中で課題を抱えている中小企業者等は多いと思われることから、習得した支援手法の知識に基づき，適切なアドバイスを行うことで、県内中小企業者等の経営支援を実施していきたいと考えている。

・今後は失敗を恐れずにまずは行動するという姿勢を大切にし、課題に対して迅速に対応できる力やあらゆる面での経験値を積んでいけるようにしたい。さらに、現地の方々の前向きさやスピード感に刺激を受け、自分ももっと挑戦的でありたいと思った。

・食品表示のデジタル化やAI・ロボット活用、ニューリテール戦略から、正確な情報提供と作業効率化の重要性を学んだ。異文化環境での柔軟な視点を活かし、消費者の利便性と信頼を高める製造・販売体制の構築に役立ていく。

・今後の学習・進路にしっかり反映していきたい。最も大きいのは、異文化交流の価値を深く理解したことであり、中国で多様な価値観に触れ、自分が海外に行き、交流したことで異なる文化の中でも前向きに学べると確信できたことは大きな収穫だった。

・中国の方は想像以上に日本への関心が高く、日本ならではの景色や食、健康分野に強い興味を持っていることが分かった。健康を切り口とした新たな産業の可能性についても知ることができた。地方への関心が高まっている今、鹿児島として、また弊社としても、まだまだ取り組める余地があると感じた。

・特に日本と上海の文化の違いについて深く学ぶことが出来た。接客スタイルや働き方など調べて得た知識と、実際に肌で感じるのでは大きな差があり、驚くことばかりだった。多くの異業種・現地の方との交流の中で伝える、伝わることの大切さ、現状に満足せず貪欲にスキルアップを目指すことの重要性を実感することが出来た。

・日本と中国のスピード感の違いを感じた。ひとつひとつを丁寧に積み上げていく印象の日本に対して、一息に物事を進める中国という印象を持った。自分は仕事が遅いので、中国のマインドを取り入れながら今後の業務に取り組んでいきたいと思う。また、対外的な意識の違いを強く感じた。元々、外国人のお客様への対応に向けて、もっと語学学習を含めた自己学習が必要だと感じていたが、その気持ちがより強くなった。

・現地の産業や企業の取り組みを自分の目で確かめることで、当初掲げていた「都市型経済から学ぶ業務効率化とコスト管理の革新」というテーマに対して、たくさんのヒントと刺激を得ることができた。出発前は、日本で日常的に触れるニュースや情報の多くが、一部のネガティブな側面を強調した内容であったため、上海に対して限定的なイメージを持っていたが、実際に都市の発展や技術水準を見たことで先入観が更新され、“現場で得る生の情報の重要性” を実感した。

・今回の研修全体を通して、中国ではスピード感が非常に重視されていることを強く実感した。今後、私自身が業務の中で実践していきたいことは、市場の変動に対して迅速に適応する姿勢を持ち続けることである。

3. 研修成果

《台北コース》

・本研修にて掲げた「地場で働く製造業として、鹿児島のものづくりを強くするために海外から学びたい」というテーマに対し、多くの収穫や気づきを得ることができた。台湾の製造業は国内市場が限られるため、世界市場を見据えたモノづくりをしている。海外市場で生き残るため、独自の「安くて使えるものを製造する」という価値観がそのまま強みになっていると感じた。世界市場に適合するため、ニーズに対して変化しなければ生き残れないという所を強く感じた。

・日常生活において、身の回りは海外産のものばかりなのにもかかわらず、外国というだけでどこか遠い場所のように捉えてた。しかし、実際に台北の街を歩き、現地で働く方と話すことで、私の中の海外に対するイメージが大きく変わった。私たちと同じように生活し、楽しみ、悩み、考えながら日々を過ごしている人が当たり前にいることを知ると、遠い異国の地であった台湾が、今はとても身近な場所のように感じている。

・文化や価値観の違いに触れたことで，「自分にとって当たり前のこと」が必ずしも他者にとっての当たり前ではないことを強く実感した。異なる文化背景を理解し，柔軟に受け入れる姿勢の重要性を学べたことは，今後，さまざまな立場や背景をもつ対象者と関わる上で大きな成果である。以上のことから，本研修は，環境教育の専門性を高めるとともに，自身の視野を広げ，人と自然，そして人と人との関係性を見つめ直す貴重な機会となった。

・本研修で得られた知見や気付きは、個人の経験に留めず、社内で、グローバルな視点の重要性を広めるとともに、台湾市場の特徴やまちの構造・雰囲気、鹿児島への誘客の可能性等について共有することで、組織全体での施策立案力の向上を図る。今回の研修を一過性のもので終わらせるのではなく、今後も台湾市場における最新動向を積極的に取り入れながら、自身の専門性をより深化させることで、今回の研修の意義をさらに高めていきたいと思う。

・鹿児島県内の福祉現場においても、人材不足を前提とした支援の工夫やチーム連携の重要性を共有し、無理なく支援を継続できる体制づくりに貢献していきたい。本研修で得た学びを、日々の支援の中で少しずつ実践に落とし込んでいくことが今後の課題である。

・本県における農畜産物の生産状況では、リンゴやぶどうといった既に台湾で多く輸入されている品目の輸出は難しいものの、付加価値の高いブランド牛として展開可能である牛肉については取り組む価値があると感じた。

・今回の海外研修で得た学びは、今後の仕事や生活の両面において大いに生かしていきたい。仕事においては、自身の考えを押し付けるのではなく、相手の背景や価値観を理解した上で人を巻き込む姿勢が重要になる。海外研修で体感した、文化や考え方の違いを受け入れ、対話を通じて信頼関係を築く経験は、社内外の関係者と協働する際の基盤となると考える。今後は多様な意見を尊重しながら合意形成を図り、周囲の力を引き出すことで、チームや組織全体の成果向上に貢献していきたい。また、日常生活においても固定観念にとらわれず、多様性を前向きに受け止める姿勢を持ち続けたい。

・本研修を通じて、最も大きな成果は、海外展開に対する意識の変化である。研修前は、海外に顧客を持つことは現実的ではないと考えていたが、現地での意見交換や市場視察を通じて、条件や方法次第では十分に可能性があるという認識へと変わった。特に、真空冷凍や加工品といった手法を用いることで、自社商品を海外に届ける選択肢が具体的に見えてきた点は、大きな収穫であった。

・本研修を単なる学びに終わらせることなく、得た知見を活かした具体的なアクションを継続しながら、高い意識を保ち続けたい。また、本研修を通して培った主体性や行動力を、今後の就職活動や社会人生活に生かしていきたいと考えている。

4. 所属企業等からの意見

《上海コース》

・本研修を通じて、異文化理解や外国人材受入れに対する実践的な視点を身につけられた点を高く評価します。特に、日本との制度や価値観の違いを踏まえ、社内の職場環境を見直そうとする姿勢は今後の業務において重要です。今回の学びを活かし、外国人材が安心して働ける環境づくりや、周囲への意識啓発に積極的に取り組むことを期待します。

・当社と関わりのある現地法人の方々へのインタビューや、現地で業務に携わる方々とのセッションを通じて、実務や課題、考え方を直接学ぶ実践的な研修になり、とても有意義なものになったと思います。本研修を通じて、より主体性を発揮し、自社に価値を還元できる人材としてさらなる成長していくことを願っています。

・日頃はどうしても生産現場の中で物事が完結しがちですが、品質や食品安全をさらに高い水準で安定させるには、現場の外に目を向け、社会・市場・制度の変化を自分の目で捉える力が欠かせません。世界情勢や国ごとのルール、消費者意識の違いは、調達・物流・表示・販売まで密接につながっており、私たちの仕事と無関係ではいられない時代だという実感を、今後も持ち続けてもらいたいと思います。今回得た経験をベースに、さらに大きく成長し、仕事でも人としても一段上のステージへ進んでほしいです。人間力が上がれば、仕事の成果も、プライベートの充実も必ずついてきます。これからの伸びを楽しみにしています。

・デジタル技術の導入やビジネスモデルの進化は目覚ましく、日本が学ぶべき点が多々あるように感じました。また、上海企業との対話を通じて、彼らの事業に対する熱意とスピード感に自身感銘を受けたと同時に、日本と中国は強固な連携体制を築き、グローバル市場での競争力を高めていかなければならないと改めて感じました。今回の海外研修で得た知見を、今後鹿児島県内企業の付加価値向上に繋げていくことを心より願っております。

・個人として新たな知見や経験を得られ、非常に有意義な海外研修となったことが伺えます。最先端を行く企業や技術に触れること、またその企業や人のパワーを感じることで、自身の業務をもっと考えるきっかけになったのは良かったと思います。また県内の異業種の皆さんとの交流も貴重な機会・財産になったことと思います。私どもも社として、鹿児島のためにできることを考えて盛り上げていきたいと思いました。

・今回の上海での研修を通じて、非常に良い刺激を受け、物流の発展や現地の商業施設運営について多くの学びを得られたようです。特に「現地化」の重要性や、インバウンド産業の課題と可能性についての洞察は今後の仕事にも活かすことができるかと感じました。今回の経験を活かして積極的に取り組んでほしいと考えています。

・現地でのリアルな経験が多角的な学びに繋がったことを大いに評価します。特に海外へ進出する際、その国の文化や仕事の進め方、また、社会情勢など考慮すべき点があることへの気付きに繋がったのではないかと思います。また、研修後は自ら率先して海外からのお客様の接客を行うようになり、与えられた仕事に対してもスピード感を持って取り組む姿勢が見られるようになったのは、今回の研修の成果だと思っています。

・実体験から得た「文化の違い」や「伝えることの大切さ」は、今後のインバウンド対応に直結する重要な視点です。自らの段取り不足を真摯に省みる姿勢に誠実さを感じます。この内省を「準備の質の向上」へと繋げ、より高いレベルでの店舗運営とチームリードを実践してくれることを楽しみにしています。

4. 所属企業等からの意見

《台北コース》

・自社・自身の置かれている環境とは全く違う世界に触れることで、いい気付きを得られたように思います。高品質・即応力を兼ね備えた生産技術、ひいては当社製造のレベルアップにつながるような、コア人材になることを期待しています。

・２つの目的である、「自身の視野を広げる」「鹿児島で働く仲間と横のつながりを作る」につきましては、実際に現地に行くことでしか達成は難しかったと考えております。たくさんの意識の高い仲間たちと同じ時間を共有し、日本以外の文化に直接触れることで、社会人として一歩成長してくれました。また、研修で得た経験から３つの目標も立ててくれました。今の仕事がどちらかというと内向きな立ち位置であることは本人も認めておりますが、仕事柄そういう役割であっても、まずは自分の席からフロアの他の職場に飛び出し、事務所から現場に飛び出し、グループ企業に飛び出し、社外に飛び出し、世界に目を向けながら沢山の人々と出会い、その方々に助けられながらまた時には手を差し伸べることで仲間を助けながら、これからの社会人人生を生き抜いて欲しいと考えております。

・鹿児島への誘客に向けては、本人が感じたように「誰に、何を、どうやって伝えるか」が特に重要であり、そのためにはターゲット客の嗜好や行動特性等を十分検討し、時間軸を設けて取り組んでいくことがポイントになります。今後、インバウンド対応や多文化共生が本格化していくことが見込まれており、今回の貴重な経験を今後の業務に積極的に活かしてもらいたいと思います。

・現在ＪＡグループ鹿児島では農業所得増大の柱として、県内農畜産物の輸出拡大に取り組んでおります。今回の報告書を拝見し、現在の市場や小売店において、鹿児島ブランドに対する消費者ニーズや競合産地との差異を、実地で肌で感じ取ったことがよく伝わりました。この知見は組織にとって大きな財産です。得られた視点を部内・会内で共有するとともに、今後の生産者やＪＡへの巡回でも積極的に還元してください。

・初めての外部（海外）研修で、同行した異業種の方々や現地企業や駐在邦人の方々との交流が出来たこと、現地企業様へのアプローチや実際の企業活動や現場を体験できたことは今後の社会勉強や実務においてとても貴重な経験となったと思います。個人研修においては、課題に掲げた廃棄物（ごみ）リサイクル関連の企業様との面談も実現し、一定の成果が得ることが出来たのでは思います。最後に今後の自身のリサイクル事業への取り組みを通して、鹿児島県における「資源循環型経済」への貢献に期待して参りたいと考えております。

・台湾での企業視察や交流を通じ、国際的視野を広げた点を高く評価します。異文化とのコミュニケーションも創造性とイノベーションの促進に良い機会となったのではないでしょうか。今後はその経験を社内に還元し、業務改革を牽引する存在として期待しています。

・今回の研修報告書を拝見し、海外市場における氷菓・アイスクリーム商品の多様性を現地で確認し、製造および設備管理の両面から有意義な気づきを得られた点を高く評価します。台湾市場の特性や消費行動を実際に調査し、自社主力商品との親和性に着目した点は、視野の広がりを感じさせるものでした。また、安定した品質確保における設備管理の重要性を改めて認識したことは、今後の業務精度向上にもつながると期待しています。今回得た知見を職場で共有し、設備管理体制の強化と安定した生産への貢献に役立てていただきたいと思います。

5. 講評・総評

《上海コース　有村団長》

昨年に続き団長を務めさせていただいた。上海に到着して驚いたことは「人の多さ」「土地の広大さ」である。人口は約2,400万人と東京都よりもはるかに多い。その環境の中、参加者からは企業視察で訪問した各企業の話を聞き、また、私自身も自動運転技術を体験するなど、中国の技術の高さを実感することができた。

参加者から特に挙がった意見として、「意思決定の早さ」といったスピード感がある。これは現場判断の重要性を示すものだが、その判断を可能にするためには、自社の商品やサービスの強みを自らが十分に理解していることが大切であると感じた。日本、そして鹿児島に置き換えて考えると、企業によっては稟議が必要な場合もあるが、これは組織として同じ方向を向いている証でもある。
そのため、スピード感を高めることは個人でも実践可能である。例えば、メール対応の迅速さや、物事を一人で抱え込まず、同僚や上司等を巻き込みながら解決していく行動力などは、個人の成長にもつながるものである。

この研修を通じて、参加者はそれぞれに成長を実感したのではないかと思う。参加者を送り出していただいた企業の皆様には、ぜひ積極的に仕事を任せ、さらに磨きをかけていただきたい。その経験の積み重ねが、企業の発展にとどまらず、将来的には鹿児島県を牽引するリーダーの育成につながるものと期待している。

《台北コース　川原団長》

台風の影響による日程変更に伴い参加することができなかったが、報告会での発表を聞いて参加された方は貴重な経験をされたのだと実感している。

自身も鹿児島青年会議所での活動を通じて、鹿児島市を中心に「国際化」に向けた活動をしている。その中で「鹿児島県民のパスポート取得率の低さ」や「街中の英語表記の少なさ」が課題であると言われており、研修に参加された皆さんには、このような課題を解決するためにも、企業の枠を越えて、国際化・グローバルな物事やPRに取り組んでほしい。

さらに鹿児島には黒毛和牛やお茶、水産物など他県に誇る『良い素材』がたくさんある。それを活かすためにも、今後もこのような取り組みに積極的に取り組んでいただきたい。

「心躍る」を
解き放つ HIS

受託会社
株式会社 エイチ・アイ・エス 九州事業部